

令和7年度第3学期終業式式辞

おはようございます。3月7日に穎明館高等学校の卒業式が盛大に行われ、39期卒業生がそれぞれの進路に巣立っていきました。1年生から5年生までの皆さんは、学年末をどういう気持ちで迎えていますか。こういう節目の日に自分の立てた目標に対してどうだったか、これからどうしていくべきか、を考えることは大切です。私は昨年4月、第1学期始業式で、谷川俊太郎さんの「春に」という詩を朗読してスタートしました。早春の息吹を感じつつ、改めて「春に」を朗読して、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

春に 谷川俊太郎

この気もちはなんだろう
目に見えないエネルギーの流れが
大地からあしのうらを伝わって
ぼくの腹へ胸へそよしてのどへ
声にならないさけびとなってこみあげる
この気もちはなんだろう
枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく
よろこびだ しかしかなしみでもある
いらだちだ しかもやすらぎがある
あこがれた そしていかりがかくれている
心のダムにせきとめられ
よどみ渦まきせめぎあい
いまあふれようとする
この気もちはなんだろう
あの空のあの青に手をひたしたい
まだ会ったことのないすべての人と
会ってみたい話してみたい
あしたとあさってが一度にくるといい
ぼくはもどかしい
地平線のかなたへと歩きつづけたい

そのくせこの草の上でじっとしたい

大声でだれかを呼びたい

そのくせひとりで黙っていたい

この気持ちはなんだろう

穎明館生の皆さん、改めて1年たって「春に」はどうでしょうか。

私は1年前にこう言いました。

春という季節、またその言葉には躍動感があり、誰もがそこに喜びや安らぎ、あこがれを抱く。「春」には「人生の春」、という言葉もあるように、人生における喜び、例えば入学、進級、入社、出世、結婚、出産等々の喜びが、象徴されているといっても過言ではない。ただ、それを単純に嬉しいとだけ決めつけられない、割り切れないのが私たちの生活、人生である。嬉しい気持ちとともに、逆の面がバランスをとるかのようには心に生じているからだ。入学した学校や新しいクラスでなじめなかったらどうしようとか、地位やお金、新しい家族が手に入れば、それを失う心配だって生まれる。

作者はこう言う。

「よろこびだ しかしかなしみでもある／いらだちだ しかもやすらぎがある／あこがれだ そしていかりがかくれている」。

穎明館生の皆さん、今年度1年間、学校生活を送ってきて、この喜びを謳歌しつつも、その喜びだけに安住することのできない気持ちに共感できますか。例えば、意欲的に学校生活を送りながらも、あわただしい日常や複雑な人間関係の中で、自己嫌悪や自己否定に陥ったことはありませんでしたか。

人生の先輩としての助言も伝えましたね。

人間関係で悩んだとき、「自分とは合わないな」と思う人が現れても、「あいつは嫌だ」と決めつけるのではなく、また相手を強引に変えようとするのではなく、その人のよい所を探そう、見つめようとする中で、人間関係のバランスは少しでも保たれる。人生の先輩として助言するならば、出来事の両面を見抜く力を身に着けること、その上で心に起こるプラス、マイナスの思いを冷静に受け止めて、上手にバランスを取りながら前に進むことが大切だ。

くり返し伝えておきます。

「この気もちはなんだろう／目に見えないエネルギーの流れが／大地からあしのうらを伝
わって／ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ／声にならないさけびとなってこみあげる」

穎明館生の皆さん、我々は地球上の大きな自然環境に生かされているのです。「この気も
ちはなんだろう」と感じた時には、広大な穎明館の自然に身をゆだねつつ、静かに大地のエ
ネルギーを感じながら、プラスとマイナスの両方の正直な気持ちを味わってみてください。
変わり続ける感情とどう折り合いをつけて生きていくのか、それが生きるということなのだ
と、この詩は教えてくれます。

春が巡ってくるたびに私は決意します。谷川俊太郎作「春に」を胸に、穎明館生皆さんが、
もがきながらも心身ともに、たくましく成長する姿をしっかりと見守っていこうと。

ところで、今この場にも成績、進路、人間関係など様々な悩みや不安を感じている人もい
ることでしょう。悩みや不安で押しつぶされそうなとき、心を解放するために、魔法の言葉
を用いる方法を紹介しておきます。私の場合、魔法の言葉は「意外と私は」という言葉です。
例えば、「ああ失敗したな」と落ち込んで自分を責め始めた時に、「そうはいっても意外と私
は」と自分自身に語りかけるようにしています。「意外と私は頑張ったんじゃないか」とか、
「意外と私は皆に感謝しているんじゃないか」などと、自分を肯定的にとらえ直すことで、
心が解放されることを感じます。「意外と私は」——参考にしてみてください。

日頃からの心がけとしては、やはり豊かな言葉に触れる習慣を持つことです。「春に」、谷
川俊太郎さんの詩もそうですが、皆さんの心、人生を豊かにする文芸作品は多くあります。

何気なく覚えていた言葉が、いざという時にあなたを救ってくれることは、これからの人
生でも必ずあるはずです。そのような素敵な言葉との出会いもあるようにと願っています。

最後にもう一つ、「春に」から……………。

「この気もちはなんだろう／枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく」。

冬の寒さに耐え、これから膨らんでいこうとする新芽が、自分に何かを呼びかけるような
感覚——今、皆さんにありませんか。穎明館生の皆さん、3学期、令和7年度を振り返り、
自分自身を素直に見つめ直してみてください。そして4月からの新年度に向けて、また何か
が始まることに期待しつつ、改めてお互いに誓いを立てようではありませんか。

以上、令和7年度第3学期終業式の式辞といたします。